

令和4年度事業報告書
(自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

公益財団法人仙台微生物研究は令和3年に亡くなられた海老名卓三郎先生の意思を引き継いで事業を行いました。新型コロナも落ち着いて来た中、若手研究者の顕彰する北斗医学賞の表彰を行うことができました。

1. 免疫細胞 BAK 療法の研究

岡本研究所長のもと、海老名卓三郎先生が確立した、末梢血由来 CD56 陽性細胞を利用した免疫細胞 BAK 療法の実用化に向けての研究を行った。全ての固形癌に対し発癌転移予防効果を高める CD56 陽性細胞をより多く増殖させるための製造手順の研究を行い、原法の再現ができたとみなす結果を得た。

2. 第10回「石田・海老名記念北斗医学賞」の表彰

微生物学、免疫学、腫瘍学、公衆衛生学の分野で卓越し業績を挙げた鈴木康規氏に決定し令和4年11月24日、江陽グランドホテルにて受賞式が挙行された。

第10回「石田・海老名記念北斗医学賞」の経緯

審査委員長および審査委員選出

審査委員長：石井直人（東北大学大学院医学系研究科教授）

審査委員：赤池孝章（東北大学大学院医学系研究科教授）

錫谷達夫（福島県立医科大学教授）

渡邊誠（公益財団法人仙台微生物研究所専務理事）

第74回日本細菌学会東北支部会学術集会・総会

開催日：2022年8月22日（月）～23日（火）

場所：福島県立医科大学駅前キャンパス

出席者：渡邊誠、坪井明人

受賞候補選出：鈴木康規氏（北里大学獣医学部准教授）

Rhodococcus equi 毒力関連抗原 VapN の発現量はアンチセンス RNA の発現変化によって抑制されることを証明

3. 広報活動

研究内容を県民のみならず多くの方々にフィードバックするため情報発信としてホームページの刷新を試みた。現在は工事中となっているが令和5年度、早々にリニューアル開設する予定となっている。

以上